

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第2区分

【発行日】平成27年1月8日(2015.1.8)

【公開番号】特開2013-169425(P2013-169425A)

【公開日】平成25年9月2日(2013.9.2)

【年通号数】公開・登録公報2013-047

【出願番号】特願2012-36801(P2012-36801)

【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F	7/02	3 3 4
A 6 3 F	7/02	3 2 6 Z
A 6 3 F	7/02	3 2 4 C
A 6 3 F	7/02	3 2 8
A 6 3 F	7/02	3 0 4 Z

【手続補正書】

【提出日】平成26年11月18日(2014.11.18)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

遊技に対する不正行為を検知する不正検知手段と、

前記不正検知手段にて遊技に対する不正行為を検知すると、遊技の進行を停止させ、所定の遊技復帰条件に基づいて、当該停止を解除する遊技停止手段と、

所定の払出し条件が成立したことに基づいて遊技媒体を払出す払出制御手段と、

所定のタイミングで乱数値を更新する乱数更新手段とを有し、

前記払出制御手段は、前記遊技停止手段にて遊技の進行が停止された際、当該停止前に前記所定の払出し条件が成立していたものに関しては、該払出し条件に基づき遊技媒体を払出し、

前記乱数更新手段は、前記遊技停止手段にて遊技の進行を停止させても、所定のタイミングで乱数値を更新させてなることを特徴とする遊技機。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 2】

従来の遊技機として、例えば特許文献1に記載のような遊技機が知られている。この遊技機は、不正行為を検知して不正検知信号を発信する不正検知センサを備えており、この不正検知センサによって不正を検知すると遊技の進行を停止するというものである。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0004】

しかしながら、上記のような遊技機には、ノイズ等の誤作動で不正を検知した場合、遊技者に不利益を与えてしまうという問題があった。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

請求項1の発明によれば、遊技に対する不正行為を検知する不正検知手段（不正検知基板50）と、

前記不正検知手段（不正検知基板50）にて遊技に対する不正行為を検知すると、遊技の進行を停止させ、所定の遊技復帰条件（ステップS12、遊技動作停止解除スイッチ650）に基づいて、当該停止を解除する遊技停止手段（遊技動作停止フラグGSF）と、

所定の払出し条件（払出制御コマンドPAY_CMD）が成立したことに基づいて遊技媒体を払出す払出制御手段（払出制御基板70）と、

所定のタイミングで乱数値を更新する乱数更新手段（ステップS23）とを有し、

前記払出制御手段（払出制御基板70）は、前記遊技停止手段（遊技動作停止フラグGSF）にて遊技の進行が停止された際、当該停止前に前記所定の払出し条件（払出制御コマンドPAY_CMD）が成立していたものに関しては、該払出し条件（払出制御コマンドPAY_CMD）に基づき遊技媒体を払出し、

前記乱数更新手段（ステップS23）は、前記遊技停止手段（遊技動作停止フラグGSF）にて遊技の進行を停止させても、所定のタイミングで乱数値を更新させてなることを特徴としている。

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0009

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0010

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正8】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0011

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正9】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0012

【補正方法】削除

【補正の内容】